



JPBAプレイヤーズドリームマッチ2021

11月26~28日/スポーツ名古屋

選手会手作りの新トーナメントで

選手会長・川添奨太が

V20達成



▲選手会で作り上げた大会で、選手会長の川添が初代チャンピオンに



▲照明や音響など趣向を凝らした決勝レーンに川添は「気持ちが盛り上がってすごくよかった」

大会のコンセプトのひとつが「トッププレイヤーの輝ける舞台を作ること」とあって、2020/21シーズンポイントランキング上位12名(APAプレゼント&Q2021終了時点)を決勝にシード。2日間にわたり行われた予選ラウンドの上位12名を加えた24名が、いきなり決勝トーナメントで激突(2Gマッチで1勝1敗の場合は、9、10フレのプレーオフ、それでも決着がつかない場合は、ワンショットプレーオフ)した。

1回戦は12対戦のうち9対戦がプレーオフに持ち込まれる熱戦となった。そして1回戦の敗者には、12名で2Gを投球し、上位4名が2回戦に進めるという救済措置が設けられていた。

1回戦で敗れながら、その敗者復活戦で命拾いした川添は、2回戦、3回戦をいずれもワンショットプレーオフの末にしぶとく準決勝に勝ち上がった。川添以外では、1週前のSSSカップで悔しい準優勝の山本勲、1回戦から3回戦までいずれもストレート勝ち、しかも3回戦



▲「たくさんの方の支援でこんな素晴らしい大会を作ってもらえ、その大会で優勝決定戦までこられたのは、いい経験になった」と高田

2G目にはパーフェクトをマークした高田浩規、今年シニア入りしたベテラン・小原照之が勝ち進んだ。

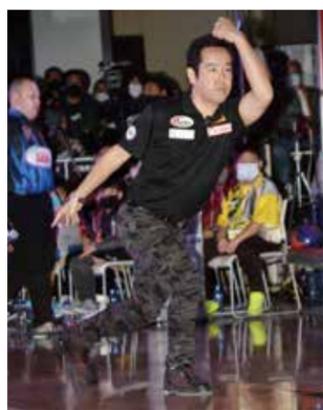
準決勝の第1試合、小原と高田の対戦は、1G目はフォーススタートの高田がそのリードを守って225:188で先取。2G目は小原がターキースタートで先行するが、その後は「思いのほか曲がり方が足りなくて、最後まで合わせられなかった」と202に終わった小原を、ノミスの237を打った高田が連勝で優勝決定戦進出を決めた。

準決勝第2試合は、山本と川添の対戦。1G目はターキースタートの川添が、6フレから2つめのターキー、10フレのパ

ンチアウトで、⑦タップに苦しんだ山本に247:205と先勝した。2G目は互角の序盤から、山本が5フレからのターキーで抜け出すが、川添も7フレからのターキーで追いついた。1ピンリードの川添の10フレ1投目はアンラッキーな⑨タップ。逆転のチャンス山本だったが、⑥を残す9本カウントで、川添に軍配が上がった。

高田と川添の優勝決定戦での対決は、2017年の全日本選手権以来。そのとき初優勝を阻まれたリベンジを誓う高田だが、1G目は右レーンの攻略に苦しみ、5フレからターキーを持ってこるも、8フレ⑩タップで切れると、それをスペアミス。一方、5フレからピンアクションの助けもあってフォースを持ってきた川添が236:207で先勝した。

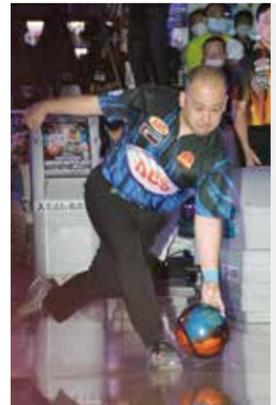
「初優勝(デビューの2010年ジャパンオープン)もパーフェクトだったし、20勝目も



▲「せめてナインテンプレーオフまで持ち込みたかった」と小原

JPBAの男子選手会とプロボウリング協会が共催し、クラウドファンディングを活用して誕生した『JPBAプレイヤーズドリームマッチ2021』は、選手自らが企画から運営まで汗を流し、手作り感満載の大会となった。なかでもその中心で奔走した選手会長の川添奨太(49期・東名ボール)が、おいしいところをかっさらっていくという、できすぎのストーリー。その川添はこれが通算20勝で、念願の永久シードの仲間入りを果たした。

パーフェクトで…」との思いを秘めた2G目の川添は、1フレから気迫のストライクを連発。5フレ⑩タップでその夢は断たれていたが、「右レーンが甘いなど感じていたが、解決できないまま終わった」高田を254:215で制して、20勝の大台に到達、矢島純一をはじめ、酒井武雄、西城正明、保倉義孝、塚原次雄に次ぐ6人目の永久シード入りを果たした。



▲宿敵・川添に準決勝で敗れ「いちばん負けたくない相手、悔しい」と山本

優勝・川添奨太のコメント

6月に谷口健会長から、コロナで大会が減ってしまっている状況で、選手会が主体となって自分たちで作ってみたいという提案を頂き、試行錯誤しながら開催にこぎつけました。単に新しいトーナメントができただけでは納得してもらえないだろうと、これまでにない新しい試みをいくつも取り入れました。選手会のなかでも賛否両論たくさんありましたが、最後は気持ちがひとつになった。

その大会で選手会長の自分が優勝して20勝を達成というのは、できすぎですね。1回戦負けから敗者復活で勝ち上がったあとも、2回戦、3回戦と1球勝負の末のギリギリの勝ち上がりだった。高田プロとの優勝決定戦も、何度もメッセージが飛んできて、開催まで苦労してきたことへのご褒美だなとすごく思った。最終Gは絶対に300で決めてやると思っ



▲谷口会長からV20の記念パネルを贈られた

た。それは叶わなかったけど、すごくがむしゃらになれた。

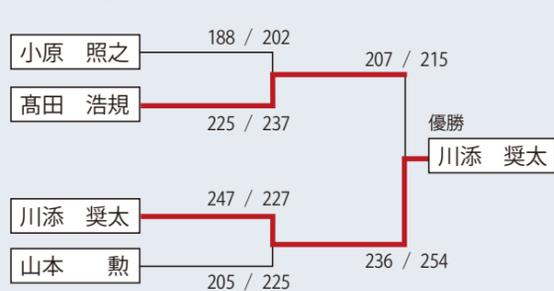
20勝は単に通過点と思っていたけど、一昨年の全日本優勝のあと約10カ月コロナで試合がなくて、再開後3試合ほど結果が出ないと、最近勝てないねって言われるし、だんだんプレッシャーが大きくなっていった。今の僕の最大の目標はPBAで勝つこと。今後も挑戦を続けます。

優勝ボール: STORMマーヴェルマックス・ブラック、ロトグリップRST X-2



▲優勝を決めて歓喜の川添。約2年間優勝から遠ざかっていた「本当に辛かった」と本音も

●男子決勝トーナメント



●優勝決定戦 1G目

高田 浩規	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	20	40	60	80	110	139	158	167	187	207
川添 奨太	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	9	20	49	69	89	119	149	176	196	216

●優勝決定戦 2G目

高田 浩規	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	20	40	68	88	108	128	147	166	186	215
川添 奨太	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	30	60	89	109	129	159	189	215	235	254